

<株式会社エフエム東京 第 449 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 30 年 6 月 5 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（5 名）

横 森 美 奈 子 委員長                      渡 辺 貞 夫 委員  
内 館 牧 子 委員                              秋 元 康 委員  
ロバート キャンベル 委員

◇欠席委員（1 名）

川 上 未 映 子 委員

◇社側出席者（11 名）

富木田 代表取締役会長  
千 代 代表取締役社長  
平 専務取締役  
吉 田 常務取締役  
村 上 常務取締役営業局長  
西 川 常勤監査役  
森 田 執行役員編成制作局長  
兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長  
延 江 営業局エグゼクティブ・プランナー  
宮 野 編成制作局編成部長  
若 杉 編成制作局制作部長  
大 橋 編成制作局制作部プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 25 分）

『SCHOOL OF LOCK!』

2018 年 5 月 28 日（月） 22:00～23:55 全国 38 局ネット

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2018 年 4 月度 聴取率調査結果について

2018 年 4 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました。（調査対象期間：2018 年 4 月 16 日～4 月 22 日）

当社コアターゲット M1F1 層（男女 20～34 歳）の全日平均において、前回 2 月度からスコアを下げる結果となり、今回は在京で同率 2 位となりました。今回の傾向としまして、これまで順調にスコアを確保できていた F1 層、20 代女性といった女性層の落ち込みが大きく、特に平日ワイド帯での低迷が影響しました。

本年 4 月改編において、早朝帯の生放送枠新設や内容ブラッシュアップで課題点を強化するべく臨んでおりましたが、レギュラーの生ワイド番組を中心に聴取分数の落ち込みが大きく、編成面で課題を残す結果となりました。また、在京 AM 局もこの 4 月改編で若者層ターゲットへシフトした新番組をスタートしており、競合他局の研究も急務と認識しております。

今回の結果を受けて、当社番組の細部に亘る総点検はもちろん、今一度編成論の原点を見直し、ターゲット層にとって真に共感と関心が得られる放送になっているか日々議論を重ね、編成制作局一丸となって次回対策に備えて参ります。

■『エフエム徳島・TOKYO FM 共同制作 鳴門第九アジア初演 100 周年記念企画 ドキュメンタリードラマ「歓喜の歌が響く街～第九の里・徳島県鳴門市の奇跡」』  
第 55 回ギャラクシー賞ラジオ部門選奨受賞

第 55 回ギャラクシー賞 贈賞式が 5 月 31 日（木）に都内で開催され、TOKYO FM とエフエム徳島が共同制作した『鳴門第九アジア初演 100 周年記念企画 ドキュメンタリードラマ「歓喜の歌が響く街～第九の里・徳島県鳴門市の奇跡」』（2018 年 3 月 18 日 13:00～13:55 放送）がラジオ部門において選奨を受賞いたしました。今年度の応募作品は上期 50 本、下期 42 本、昨年度より 20 本多い 92 本が出品されました。審査員からは、「1918 年 6 月 1 日にアジアで初めてベートーヴェンの交響曲第 9 番（第九）の全曲が、現在の徳島県鳴門市にあった坂東俘虜収容所にいたドイツ兵捕虜によって演奏されてから 100 年を迎えました。その実話とドラマ、インタビューをうまく取り入れて、現代と過去をシンクロさせ、『第九』という歌の持つ「平和への希求」を改めて考えさせられる感動的な作品に仕上がっています。」との講評が挙げられました。この受賞を受け、6 月 8 日（金）に再放送を行います（放送時間 20:00～20:55）。ア

ジアで第九が初演奏されてからちょうど100年を迎える2018年6月1日(金)、徳島県鳴門市では『よみがえる「第九」演奏会』と題し、同時刻に100年の時を超えた第九の演奏が行われました。再放送では、この模様を収録したものを再編集してお届けいたします。なお、TOKYO FMとしては、この他にもワイド番組『シンクロのシティ』、『「NAGOMI Setouchi」作家池澤夏樹の瀬戸内紀行 山口県周防大島、民俗学者宮本常一の足跡を辿って』が奨励賞を受賞しています。

■レギュラーワイド番組『高橋みなみの「これから、何する？」』、番組初イベント『高橋みなみのこれ何？フェス！！2018』を開催

レギュラーワイド番組『高橋みなみの「これから、何する？」』（月～木 13:00～14:55）では、5月30日（水）に渋谷・TSUTYA O-EASTにて番組初となるイベント「高橋みなみのこれなに？フェス！！2018」を開催いたしました。出演は、番組パーソナリティの高橋みなみを中心に、モーリー・ロバートソン、人気 YouTuber ユニットのカイワレハンマー、ライブゲストに Awesome City Club、緑黄色社会、Creepy Nuts と、番組にゆかりのあるアーティストや文化人が勢ぞろいし、それぞれのパフォーマンスを披露。エンディングでは Creepy Nuts と高橋みなみのコラボレーションも行われました。多くのメディアも取材に駆けつけ、大盛況の1日となりました。



▲全員での集合写真

▲(上) トークステージ (中) Creepy Nuts と高橋みなみ (下) Awesome City Club

**【委員の意見および社側説明】**

(「○」委員意見／「■」社側意見)

■資料には記載していないが、今朝、作家の村上春樹氏の特番を8月5日にJFN38局ネットで放送する情報公開を行った。村上春樹氏はラジオ・テレビ等への初出演となる。読者とのやりとりはこれまでも文学についてWEBなどで行ってきたが、音楽でも行えればと今回の番組に繋がった。補足資料として新聞記事を配布している。

○話題性が高い企画だ。

■すでに、各メディアからの問い合わせが殺到している。海外メディアからの問い合わせもある。村上春樹氏は『村上ラヂオ』という書籍を執筆するなど以前からラジオとは親和性がある。放送までに効果的にPRしていきたい。

○素晴らしい企画だ。1人での出演か、それとも誰かとの掛け合いになるのか。

■村上春樹氏が1人でつとめる。アメリカンスタイルを予定している。

○聴取率について、数字の落ち込みへの言及があった。かなりの落ち込みのようだが、これは短期間に何か原因があるのか。4月に新たにスタートした中で何が考えられるのか。

■僅か2ヶ月の間で数字を落としたことについて、明確な分析はまだこれからになるが、基本的には番組の底力にあると考えている。個々の番組の影響力が強ければ、揺さぶりに負けず、数字を伸ばせたと思う。

○朝帯、午後帯、夜帯など時間などでも違いはあるのか。

■午前帯や夕方、今まではしっかり数字をとれていた時間帯で大きく落ち込むこととなった。

○番組以外の原因はあるのか。例えば、その日のその時間帯で大きくラジオ聴取を落とすような何かがあったなど。

■サンプルと言われる調査対象者に拠ってしまうものではあるが、今回の調査では20代女性が全局セットインユースで過去最低の数字となった。当社がこれ

まで 20 代女性の占有率が高かったこともあり、分母ごと少なくなったことは大きな原因であり、反省すべき点かと思う。

■4 月は一般的に考えれば生活環境が大きく変わるタイミングということも少なからず起因しているかもしれない。

○ラジオ離れでなければいいが。今後の続報に期待したい。

■番組を見直すいい機会を頂いたと前向きに捉え、総点検を行っていきたい。

○番組なのか別の要因なのか。

■今回の調査では、聴いている人のリーチでは依然全局 1 位となっているが、聴取時間が短いという結果が出ている。途中でチャンネルを変えてしまう人がいるということ。ラジオを聴き続けたり、つけたままにしてもらえような番組作りを意識したい。

○エフエム徳島と共同制作した『鳴門第九アジア初演 100 周年記念企画』特番について再放送があるとのことだが、これはギャラクシー賞の受賞があったからの再放送なのか、それとも良い番組だったので再放送に繋がったのか。番組制作は大変だと思うので、もっと再放送を増やしてもいいのではないかと思う。

■受賞をしたから再放送という決まりはない。今回は、番組で取り上げた 100 周年を 6 月 1 日に迎えるというタイミングが重なり、100 周年の記念の演奏を収録したものを再編集しての放送となる。ラジオはテレビと違い、多くの番組が生放送を中心に作られているので再放送をもともと行ってこなかった。

○コンテンツの有効利用に繋がればいいと思う。

【番組名】 『SCHOOL OF LOCK!』

【放送日時】 2018年5月28日（月） 22:00～22:55 全国38局ネット

【番組概要】

本日もご試聴いただくのは、“未来の鍵を握る”ラジオの中の学校として、全国の中高生に向け平日 月曜～金曜に放送している『SCHOOL OF LOCK!』の5月28日（月）のダイジェストです。

この日の放送では、『SCHOOL OF LOCK!』と人工知能の開発を手掛ける『(株) わたしは』がコラボして作り上げた「校長教頭 AI」のお披露目特集として、番組と AI を絡めながらお届けしました。

自身が熱心な『SCHOOL OF LOCK!』リスナーであり、日本の AI 開発にてオンリーワンの存在感をもつ『(株) わたしは』代表取締役竹之内大輔氏から番組スタッフ宛にコンタクトがあったことがキッカケとなり、『SCHOOL OF LOCK!』と AI を絡めた企画を一緒に立ち上げることとなりました。

開発の手順としては、『(株) わたしは』が独自開発した AI『大喜利β』を元に、竹之内氏と開発助手の内田氏が中心となり、校長・教頭の各音声データならびに、就任してからの全ての『SCHOOL OF LOCK!』でのリスナーとのやり取りの文字起こしデータを取り込み、あるシチュエーションに対して校長・教頭が言いそうな言葉を瞬時にアウトプットする AI を2ヶ月という短期間で開発していただきました。その開発の様子は SOL の Youtube チャンネルで公開もしています。完成した AI は、リスナーが LINE 上で、悩み質問等をメッセージで送ると、校長教頭の AI がそれに文字と音声で答えてくれるという仕組みです。



▲ 『LOCK!LAB』校長教頭 AI 画面

<第 449 回放送番組審議会>



(株) わたしは 竹内大輔 プロフィール

1981 年生まれ、群馬県出身。東京工業大学大学院博士課程で数理社会学・内部観測論を研究（博士後期課程単位取得満期退学）。WEB マーケティング会社勤務を経て、2016 年 4 月に大喜利する人工知能「大喜利 B」の開発だけに特化した「株式会社わたしは」を創業。HIS が手がける「変なホテル」の AI 開発なども手がける。ラジオと andimori が大好き。

**【委員の意見および社側説明】**

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○『SCHOOL OF LOCK!』はとても好きで、普段から良く聴いている。特に、校長と教頭のキャラクターにとっても好感が持てる。真正面からのストレートな”熱さ”と外し方のバランスがすごく良いと思う。番組内で中学生の女の子が、AIか人間かどちらが良いかを問われて、「人間です」と即答しているのはそういった熱い部分が伝わっているのかと思う。

○今回の試聴回は、前半が内輪話のような雰囲気聴こえた。ダイジェストなので全てを聴いたわけではないが、AIの説明の部分が1時間近くあるよりも、リスナーとのやり取りをもっと早く聴きたかった。きつともっといろいろなリスナーからの悩みなどがあったと思うので、そちらを多く取り上げてほしかった。こう言ったら身も蓋もないが、校長や教頭の発言の説得力を考えれば、AIを絡めなくても良かったと思う。

○よく理解ができないまま時間が過ぎてしまった。

○ちょっとした笑いどころはいくつかあったが、大きくうなずけるようなところはなかった。AIについてはテレビや新聞でも連日取り上げられているので、身近な切り口ではあったと思うが、その半分以上が結局、AIという装置というかおもちゃのような存在になっていて、今回もその範疇を出なかったと感じた。前半はテンポは良かったが、会話の中にAIの説明が挟まれていて、後半になって中学生のメッセージを聴くところで初めて、AIが実際に登場した。全体を通して内輪ノリ、楽屋落ちという感じがしてしまった。AIにとっても番組にとってもどっちつかずだったような気がする。最後で「やっぱり人間です」という結論はありきたりのオチすぎて残念だった。

○ネットショッピングなどのレコメンド機能を見ていると痛感するが、好むと好まざるに関わらずAIは生活に浸透していて、最初は鬱陶しくても、気が付いたら当たり前になっている。『SCHOOL OF LOCK!』とAIというのは一体どうということなのだろうと思って聴いた。校長・教頭の過去の発言を分析して、濃い・薄いと表していたのはおもしろかった。会議などでも発言を分析して誰の発言が濃い・薄いなどを分析する日が来ってしまうのかと思う。また、データを突きつけられて動揺する校長の様子もユニークで、ドタバタ感も楽しく聴かせていただいた。AIを一種の遊びにしている例かと思う。

○校長・教頭 AIは今後も番組に登場するのか。



■基本的に、この AI の開発の時のコンセプトは、番組内で校長や教頭に直接悩みの相談ができるリスナーは毎日 1 人か 2 人で、ほんの一握りだけれど、校長・教頭の AI があればみんなの悩みに答えられるだろうというものだった。どっちかと言えば、スマホアプリでの企画が先にあって、そのお披露目として番組で取り扱った。リスナーたちに自分の部屋で、AI を使って遊んでもらおうというのがキッカケだった。

○声から性格を分析したのか、それとも声とテキストで性格を分析したのか。

■音声に関しては、校長と教頭が約 20 分程度話した音声をインプットしている。その音声データを元に、AI が校長・教頭の発するイントネーションを推測し音声化している。またテキストについては、校長は現在 8 年になるので、過去 8 年分、教頭は 3 年なので過去 3 年分の放送後記からテキストの書き起こしデータをインプットすることによって、こういう質問にはこう答えるという予測で回答を生み出している。

○視聴回からはそのあたりが伝わってこなかった。今説明を聴いて理解した。

○前半の AI の説明の部分をスッキリさせればもう少し伝わったのかもしれない。

○新しいことにチャレンジすることはいいと思う。

■今回編集してしまった部分もあり、本編ではもう少し丁寧に放送していた。また、AI のような難しいテーマを扱ったので伝え方も難しかったように思う。この AI についても構想 1 年くらいをかけて練った。AI 自体が今法整備が急がれているような分野。VR なども同じ。その中で、今回タイアップした大喜利 β を開発している「(株)わたしは」はかなりオリジナリティのある存在。開発した校長・教頭 AI のアプリをかなりの人が使用してくれていて、今後またそのデータを元に精度が上がっていくと思う。

5.放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「JOGLIS」

6月30日(土) 7:00～7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7.その他

次回の放送番組審議会を、7月3日(火)に開催することを決めた。